

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.41
2016. May

発行者 琉球病院事務部長
有岡 雅之

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第3回沖縄PEECコース開催について

琉球病院 精神科医 福田 貴博

去る2月28日、県立南部医療センター・こども医療センターにおいて、第3回沖縄PEECコースを開催致しました。沖縄県立南部医療センターと当院が主催、沖縄県、日本臨床救急医学会、日本精神科救急学会、日本総合病院精神医学会が共催致しました。PEECとは、Psychiatric Evaluation in Emergency Careの略であり、日本語では、「救急医療における精神症状評価と初期診療」となります。救急外来には、精神疾患を有する方が多数来院されますが、精神科医が常駐している機関は非常に少ないのが国内の現状です。そこで、救急医療に携わるスタッフが、標準的な初期評価と初期診療を行うための、ワークショップ形式の研修がPEECです。今回、熊本医療センターから橋本聡医師を外部講師として招待し、県内からも、当院（大鶴医師、筆者）、南部医療センター、琉球大学医学部付属病院、平安病院より精神科医が、南部医療センターから救命救急センター長が参加し、講師を務めました。研修の参加者は、県内の救急病院の看護師、臨床心理士、初期研修医、地域の保健師、消防士などの多職種計24名でした。研修内容は、1グループ8名の計3グループに分け、実際の症例に基づいたワークを行いました。各グループにファシリテーター2~3名、コースアシスタントを配置し、十分に活発な話し合いができるようにしています。自傷・自殺未遂症例、過換気症例、幻覚妄想症例、違法薬物使用症例の4症例をテーマに、取り上げました。救急の現場ではよく遭遇する過換気症例、自傷・自殺未遂症例等は、自施設で行っている実践的な対応についてや、消防隊による救急搬送（いわゆる病院前）と、病院到着後の違いについて、それぞれの立場から意見交換を行いました。また、違法薬物使用症例は、法的な知識の確認、また治療を優先させるべきか否かについても「刑の一部執行猶予制度」にも触れながら、議論を行いました。今回の研修を通して、県内の精神科病院同士、精神科と救急医療、医療と消防の顔の見える連携が出来た手ごたえがありました。今後も、定期的に沖縄PEECコースを開催し、さらに連携を深めていく所存です。

最後になりましたが、PEECコースにご参加頂いた皆様、コース運営に携わったたくさんのスタッフの皆様、ありがとうございました。

【琉球病院野球部紹介】

皆さん初めまして。琉球病院野球部キャプテンを務めています西2病棟宮城秀作34歳です。野球部は琉球病院の各職場で働く多職種で構成され、野球をこよなく愛するチームです。試合は日曜日のみと限定されていることもあり、多くのスタッフの協力を得て試合に臨んでいます。3月に行われた春季軟式野球大会中部北支部予選では準優勝しました。これからも各職場の協力を得ながら、唯一の楽しみでもありますので頑張ります。皆さんの黄色い声援や入部希望もお待ちしております！



院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

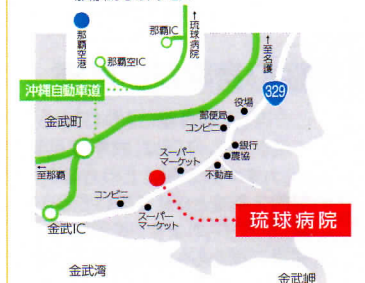
- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄/バス
[77番名護東線]浜田/バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

教育・研修

- 「看護の日」イベント ～地域住民の皆様の健康相談～
日時：平成28年5月19日(木)10時～14時 場所：金武町「スーパーかねひで」駐車場内
血圧測定・酸素濃度測定・体脂肪測定・骨密度測定・健康相談
- CVPPPトレーナーフォローアップ研修 包括的暴力対応プログラム
日時：平成28年5月16日(月)8:30～17:15 場所：午前 研修棟・午後 北棟ジム室 対象：CVPPPトレーナー資格保持者

●地域医療連携室だより

当院には50床の認知症治療病棟があり、地域医療連携室を相談窓口として医療機関、地域包括支援センターやご家族の方からの電話・来所相談を行っています。当院の物忘れ外来の一貫としてH28年1月より当院にて、毎月第4木曜日(14:00～15:00)に「物忘れ家族教室」を開催しております。「物忘れ家族教室」では認知症の予防方法や認知症についてのミニレクチャーを行っており、ミニレクチャーは医師をはじめ、看護師・心理士・管理栄養士・作業療法士・精神保健福祉士が交替で講師を行っており、申し込みや参加費は不要です。認知症の方を抱えているご家族以外でも、認知症に関心のある方はどなたでもお気軽にご参加頂いています。何かお困りの事があれば、お気軽に地域医療連携室へご相談下さい。



空床状況
4月27日現在

精神科病棟
10床

認知症
2床

アルコール
5床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間

8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)

内線: 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年に1例目のクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は165例になりました。平成28年3月のCLZ導入は3例でした。3例とも他の病院からのご紹介例で入院中の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様もこれまで多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動もなくなり、隔離は全て解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法)による治療を行っています。平成28年3月の治療実績は2例であり、各症例とも改善傾向が認められています。

こども心療科

昨年度こども心療科を新規で受診された患者様の統計をご報告致します。総数は475名、内訳として就学前が23%、小学生53%、中学生22%、15歳以上が2%でした。主な診断(二次的な問題が絡んでいても、初診時の診断名としての統計です)では、自閉症スペクトラムが約80%以上を占め、発達の問題を主訴に受診される方が多いことが分かりました。初診に関しては、ご連絡いただいてから初診日を迎えるまでかなり待っており、気になった時にすぐ診察対応できないことにスタッフも心苦しく思っております。今年度はなるべく待機時間が短くなるように様々な工夫を検討しております。また4月の診療報酬改定に伴い、児童精神科医療に関わる保険診療点数が増加しました。そのため、医療費のご負担が増える場合があります。こどもの心の医療が医療費の問題で敷居が高くなってしまわないか心配ですが、これまで以上にスタッフ一同丁寧な診察を心がけたいと思います。

認知症医療

認知症はまだ治療法が見つからない病気です。ですから、患者さんと医療スタッフの関わりは、外来通院・病棟への入院といった治療だけでは終わりません。患者さんのそばにいるご家族、患者さんの生活の場を作っている地域、新しく患者さんを受け入れる福祉施設とも協力しながら、患者さんが安心して暮らせる場所を作っていく取り組みが必要です。そして、認知症にならないための予防も大切なことです。

患者さんのご家族に対しては、家族教室を毎月第4木曜日に行っています。ご家族の方が認知症に対する知識、技術を習得することでご家族の介護負担が軽減でき、患者さんにも自宅で生活していく中で混乱することが少なくなります。次に、地域の方に対しては公民館に出向いて「ミニミニ認知症講座」を開催しています。患者さんが暮らす地域社会の認知症に対する対応力がアップすれば、見守りも充実し、認知症の人を巻き込んだ事故や事件も少なくなるのではないかと思います。福祉施設のスタッフの認知症への対応能力向上も大切です。ヘルパー派遣、デイサービス、ショートケア、施設入所と福祉サービスは様々な形で認知症の方の生活を支えます。福祉施設でサービスを提供するスタッフの対応力がアップすれば、認知症の人の生活の場が広がります。施設スタッフに対しては、琉球病院での勉強会や施設に出向いての勉強会を行っています。勉強会を希望される方は、ご連絡ください。

認知症の予防は「もの忘れ予防教室」として、毎週木曜日の午後に認知リハビリテーションを行っています。3ヶ月を1クールとして認知症予防の生活習慣を身につけます。次のクールは8月から始まります。参加希望の方は事前にお申し込みください。認知リハビリテーションを始める前と3ヶ月のクールが終わった時に認知機能の検査を行い、「もの忘れ予防教室」へ来る前と終了後の認知機能の変化を比較します。

勉強会や認知症予防、認知症に対する疑問がある方は地域医療連携室へお問い合わせください。

重症心身障がい医療

この度、人事異動により4月から当院へ着任致しました、療育指導室長の金城といいます。紙面を通して重症心身障害医療に関するご紹介をさせていただきます。今回は、成年後見制度についてご紹介させていただきます。当病棟は今年開棟40周年を迎えますが、開棟当時から入院されている方もおられます。18歳以上の方は利用者との契約入院となりますが、知的障害が重度である為、判断能力の面から法定代理人として成年後見人との契約入院をとらせて頂いております。成年後見人の主な職務としては「財産管理」(預貯金の管理)、「身上監護」(病院との契約、費用の支払い等)があげられます。成年後見人の高齢化や病気等でご負担が考えられる場合は対応を検討していく事が必要と考えております。利用者の権利擁護の面からも成年後見人への理解啓蒙が必要と考えます。ご不明な点は下記担当者までお問い合わせ下さい。

療育指導室長 金城安樹

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では3月現在、外来通院の患者様71名、入院中の患者様23名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

熊本・大分地震の被害が連日報道されている状況です。大災害があると、訪問利用者様の精神状態に影響が出ます。テレビや新聞、ラジオ等のニュースで被害地の状況を目にしたり、聞くことで不安定になることもあります。利用者様の個々の特性を把握し、不安の訴えを傾聴しながら安心感が得られるように言葉かけを行います。

沖縄県でも地震がないとは言えませんので、地震対策を確認しています。避難場所の確認や、備え等について話をすることも増えました。この時期は体調管理が難しい時期でもありますので、身体面での確認にも気をつけながら日々訪問活動を行っています。

臨床研究部活動状況

【平成27年度臨床研究部活動報告】

平成27年度琉球病院臨床研究部の活動報告をいたします。昨年度は、論文文化されたものが9本、学会発表が25本、講師としての研修会・講習会参加は38回となりました。前年度と比較すると、論文数はほぼ同数で、学会発表が減りましたが、研修会・講習会参加数は増えました。臨床研究倫理審査委員会には、治験に関する研究、クロザピリンに関する研究、f-MRIの共同研究、職場ストレスの研究、医療観察法に関する研究等多岐に渡る分野の申請があり、現在も研究が継続されています。

